



令和3年度

アンケート調査 (せきのまちづくり通信簿) 調査結果

【結果報告書・概要版】

調査の目的

「令和3年度アンケート調査 (せきのまちづくり通信簿)」は、総合計画に基づく関市のまちづくりをより着実に推進するため、関市民のまちづくりへの意識等を把握し、政策への反映に生かすことを目的として実施しました。

調査の概要

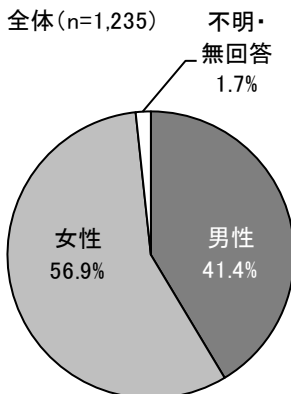
- **調査対象者** 令和3年11月現在、関市に居住している16歳以上の市民3,000人
- **調査期間** 令和3年11月15日から令和3年11月30日まで
- **回収方法** 調査票による本人記入方式
郵送による配布、郵送による回収
- **回収結果** 1,235票 (回収率：41.2%)
- **報告書の見方**
 - ・グラフ中の「n」とは、number of casesの略で、各設問に該当する回答者総数を表します。
 - ・グラフ中の「%」は、小数点第2位以下を四捨五入しているため、単数回答の設問（1つだけに○をつけるもの）であっても、合計が100%にならない場合があります。

1

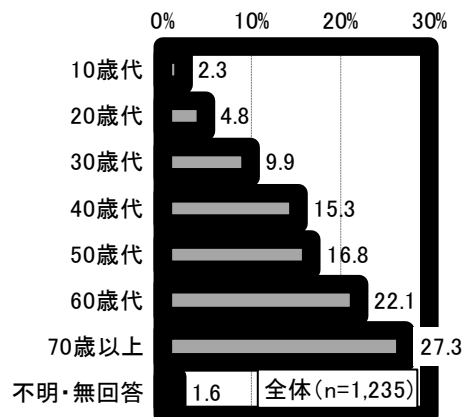
回答者の属性

回答者について、性別は女性がやや多く、年齢は70歳以上が最も高くなっています。また、居住地区は「関地域」で81.8%と高くなっています。

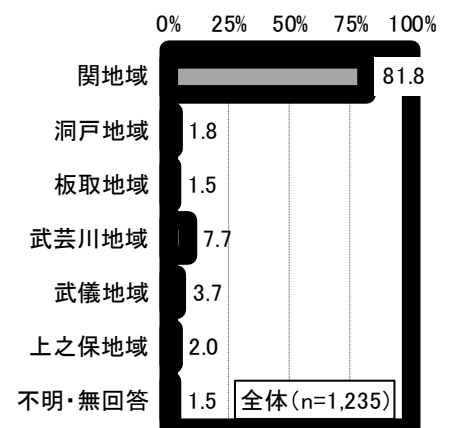
● 回答者の性別



● 回答者の年齢



● 回答者の居住地区

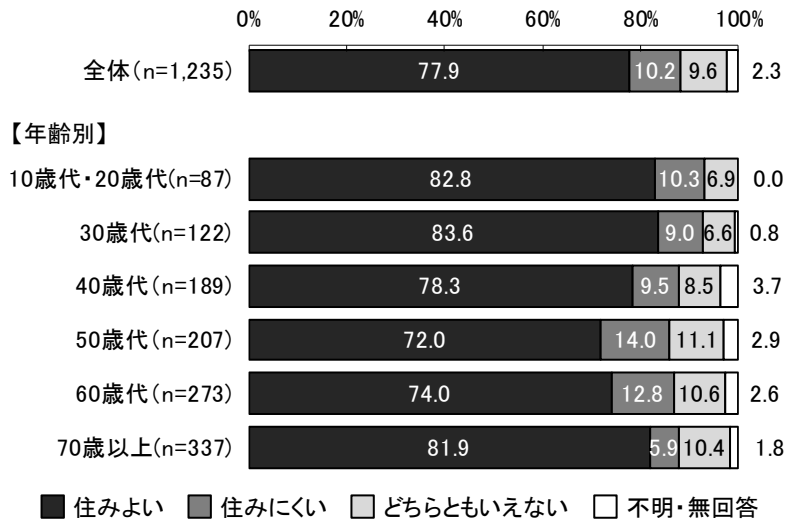


2

関市への居留意向について

●あなたは関市が住みよいまちだと感じるか

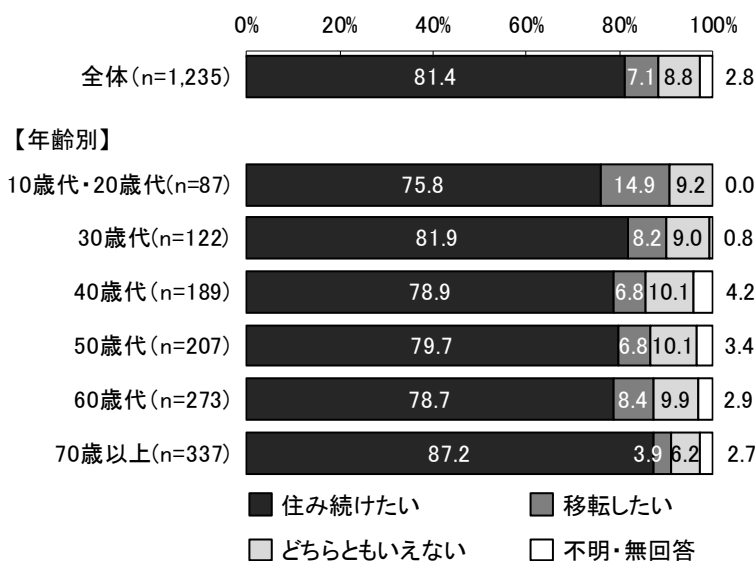
関市が住みよいまちだと感じるかについて、全体の77.9%が関市を『住みよい』と感じています。年齢別でみると、いずれの年代でも『住みよい』が高くなっていますが、50歳代及び60歳代では『住みにくい』と回答する割合が他の年代と比べてやや高くなっています。



※『住みよい』は「住みよい」と「どちらかといえば住みよい」の合算、
『住みにくい』は「どちらかといえば住みにくい」と「住みにくい」の合算。

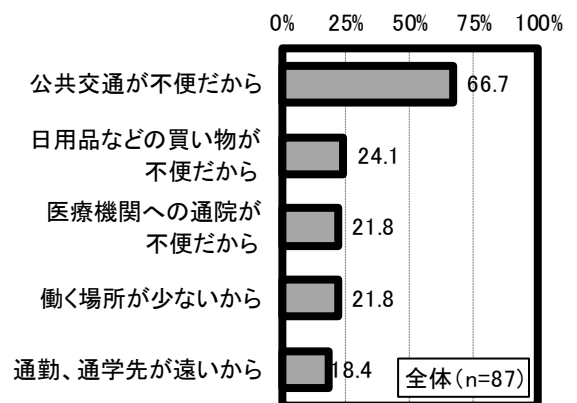
関市への居留意向について、全体の81.4%が『住み続けたい』と回答しています。年齢別でみると、10歳代・20歳代では75.8%、30歳以上では約8~9割となっています。また、『移転したい』と回答した人の理由は、「公共交通が不便だから」が66.7%と最も高くなっています。

●あなたは今後も関市に住み続けたいと思うか



●移転したいと感じる理由<上位5位>

(※『移転したい』を選んだ方)



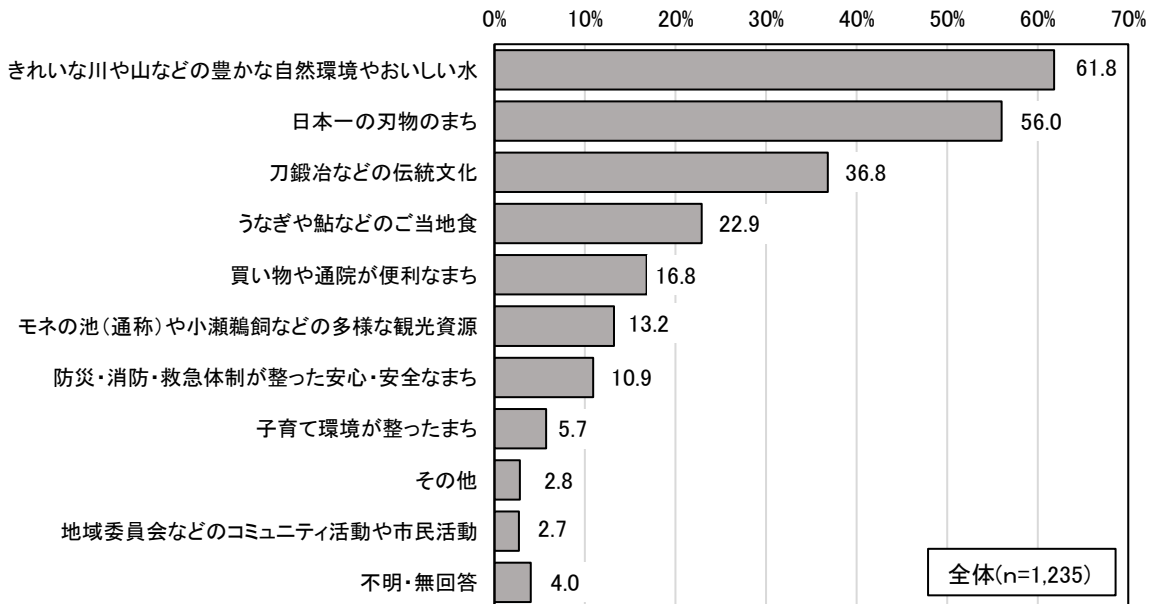
※『住み続けたい』は「ずっと住み続けたい」と「当分は住んでいたい」の合算、『移転したい』は「できれば移転したい」と「すぐにでも移転したい」の合算。

3

関市のまちづくりの現状と今後の方策について

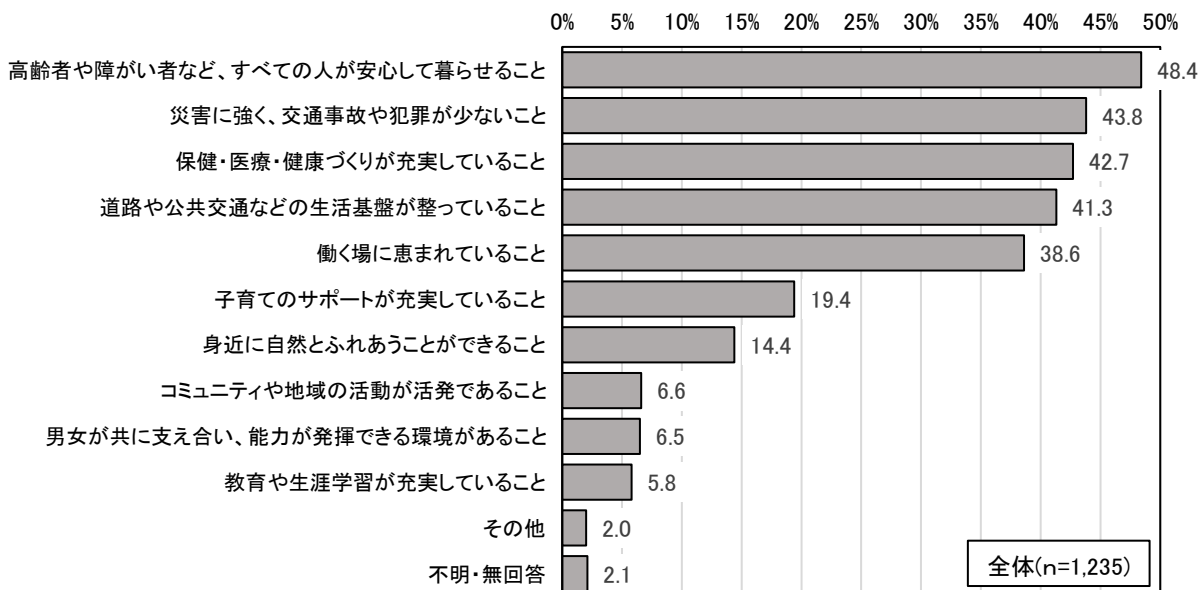
● 関市について、あなたが自慢できることは何ですか。

関市の自慢できることについて、全体の61.8%が「きれいな川や山などの豊かな自然環境やおいしい水」と回答しています。次いで、「日本一の刃物のまち」という回答が56.0%と高くなっています。



● あなたが関市に住み続けていくためには、何が重要ですか。

関市に住み続けていくために重要なこととして、「高齢者や障がい者など、すべての人が安心して暮らせること」(48.4%)、「保健・医療・健康づくりが充実していること」(42.7%)と福祉分野が高い割合となっています。

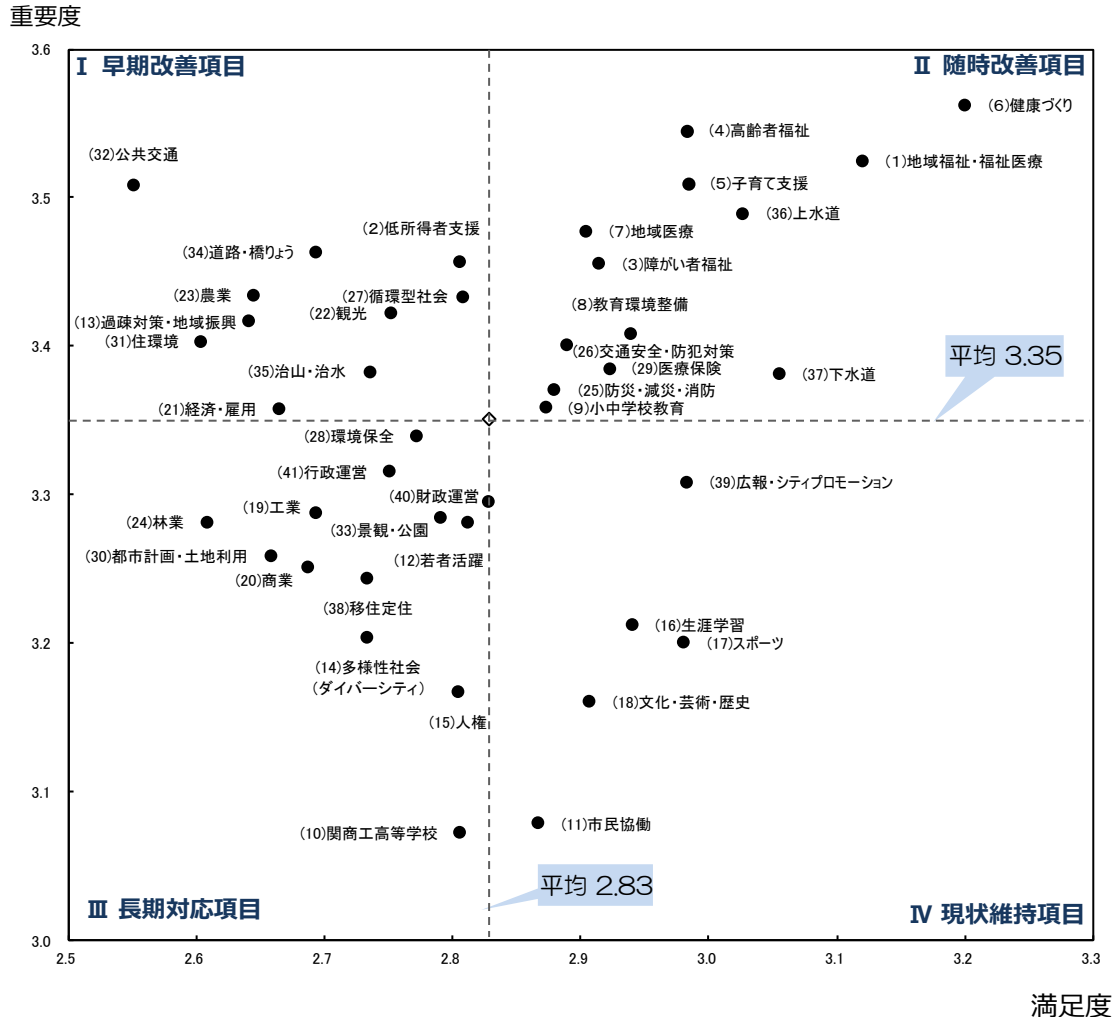


4

施策の満足度・重要度について

● 施策の満足度・重要度のポートフォリオ分析

施策の満足度、重要度は次のとおりです。



【重要度と満足度の関係】

<p><タイプⅠ>早期改善項目 (重要度は高いが、満足度は低い) ⇒現在の施策や事務事業を優先して改革・改善すべき施策の分野</p>	<p><タイプⅡ>随時改善項目 (重要度が高く、満足度も高い) ⇒今後も継続して事業に取り組めるよう、事業費が過大となっていないか点検するとともに、さらなる事業の効率化を検討する施策の分野</p>
<p><タイプⅢ>長期対応項目 (重要度が低く、満足度も低い) ⇒施策の重要性に対する認知を高めるとともに、取組の方向の改善を検討する施策の分野</p>	<p><タイプⅣ>現状維持項目 (重要度は低く、満足度が高い) ⇒今後も着実に事業の推進を図るとともに、施策の重要性についての認知を高める施策の分野</p>

「<タイプⅠ>早期改善項目」に分類される施策には、「(32)公共交通」「(31)住環境」「(13)過疎対策・地域振興」「(23)農業」「(34)道路・橋りょう」などがあがっています。

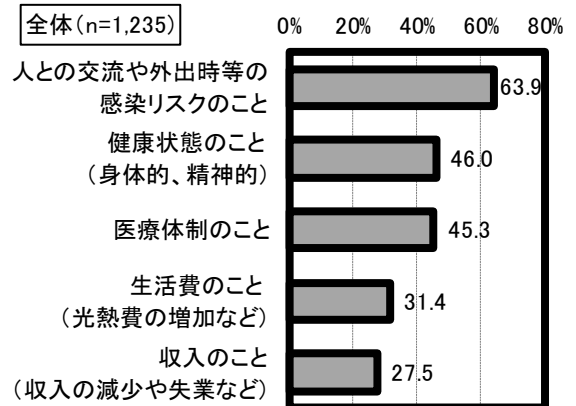
5

コロナ禍の不安と支援等について

●コロナ禍における不安<上位5位>

コロナ禍における不安について、全体の63.9%が「人との交流や外出時等の感染リスクのこと」と回答しています。

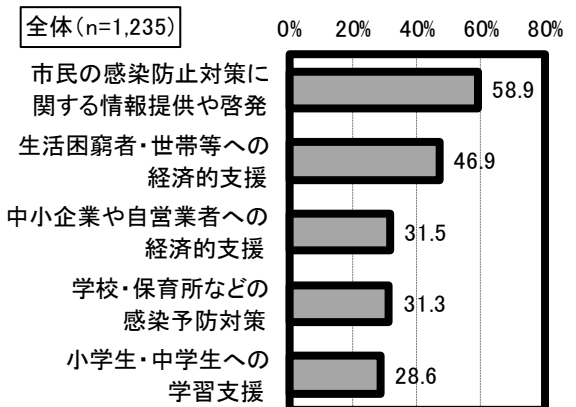
年齢別では、いずれの年代も「人との交流や外出時等の感染リスクのこと」が最も高くなっており、この他に経済的なことや心身の健康面の不安が高くなっています。



上位5位	10歳代・20歳代 (n=87)	30歳代 (n=122)	40歳代 (n=189)	50歳代 (n=207)	60歳代 (n=273)	70歳以上 (n=337)
第1位	人との交流や外出時等の感染リスクのこと					
	63.2%	63.1%	59.3%	67.6%	69.2%	61.1%
第2位	収入のこと(収入の減少や失業など)	健康状態のこと(身体的、精神的)	子どもの学力や就業機会のこと	医療体制のこと		健康状態のこと(身体的、精神的)
	34.5%	41.8%	41.8%	51.7%	56.0%	52.5%
第3位	健康状態のこと(身体的、精神的)	医療体制のこと	生活費のこと(光熱費の増加など)	健康状態のこと(身体的、精神的)		医療体制のこと
	34.5%	38.5%	39.7%	43.5%	52.4%	44.5%
第4位	医療体制のこと	収入のこと(収入の減少や失業など)	健康状態のこと(身体的、精神的)	収入のこと(収入の減少や失業など)	生活費のこと(光熱費の増加など)	
	28.7%	37.7%	38.1%	30.9%	29.7%	27.6%
第5位	生活費のこと(光熱費の増加など)		収入のこと(収入の減少や失業など) / 医療体制のこと	生活費のこと(光熱費の増加など)	収入のこと(収入の減少や失業など)	
	25.3%	37.7%	各 37.0%	30.0%	24.5%	16.6%

●コロナ禍において市が特に取り組むべき事項<上位5位>

コロナ禍において市が特に取り組むべき事項について、全体の58.9%が「市民の感染防止対策に関する情報提供や啓発」と回答しています。

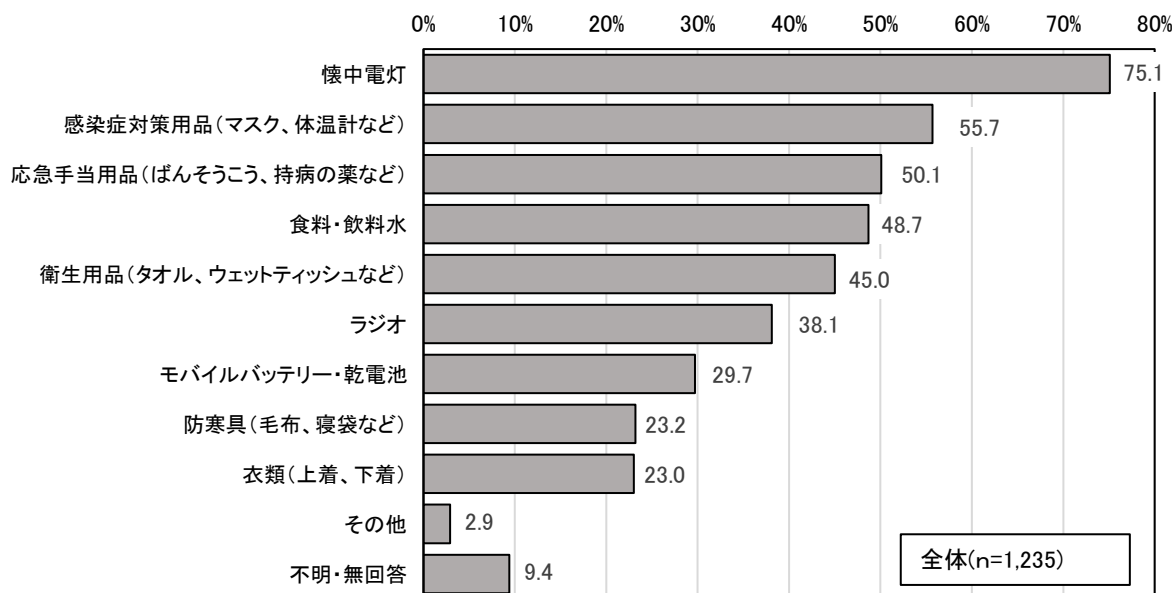


6

まちづくりへの意識と取組について

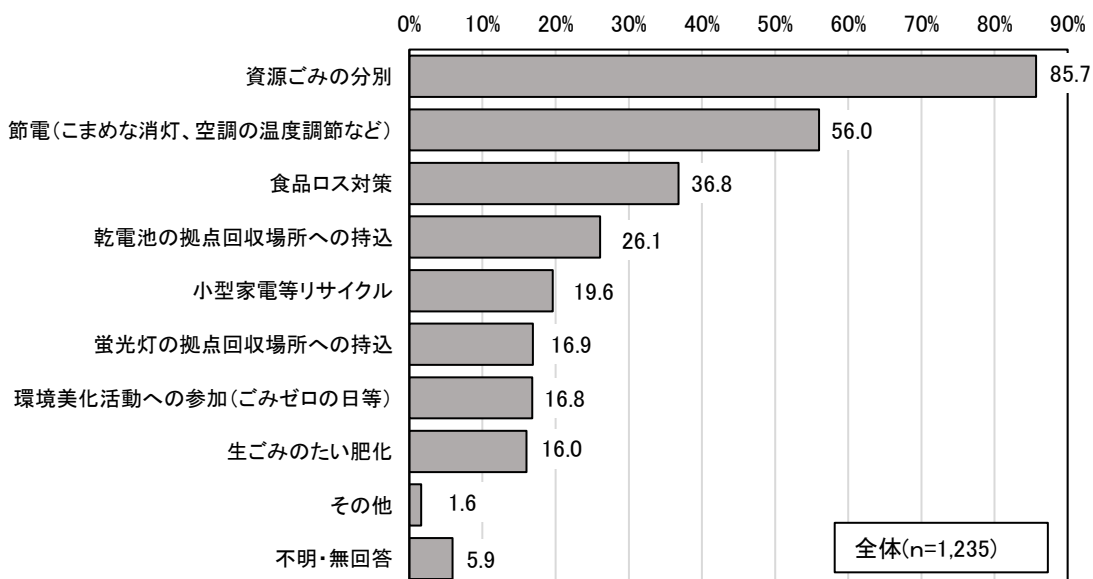
●あなたの家では災害備蓄品について何をどの程度準備していますか。

災害備蓄品について、最も多く準備されているものは75.1%で「懐中電灯」、次いで多かったものが55.7%で「感染症対策用品（マスク、体温計など）」となっています。「食料・飲料水」を備蓄している家は半数以下の48.7%となっています。



●あなたは、環境に配慮した取組としてどのようなことを行っていますか。

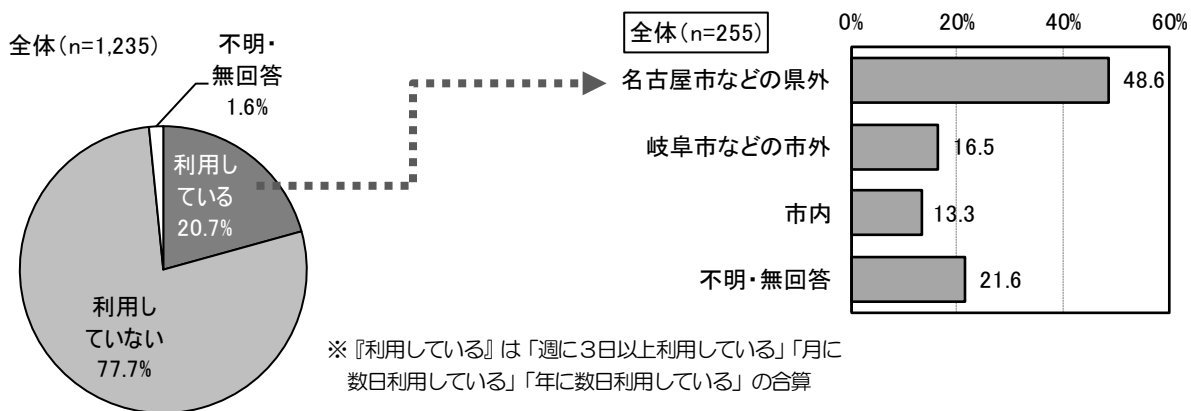
環境に配慮した取組について、「資源ごみの分別」が最も多く8割以上の方が取り組んでいます。次いで、「節電（こまめな消灯、空調の温度調節など）」が56.0%となっています。



●市の公共交通の利用について

●公共交通を利用して主にどこに行くか(※『利用している』を選んだ方)

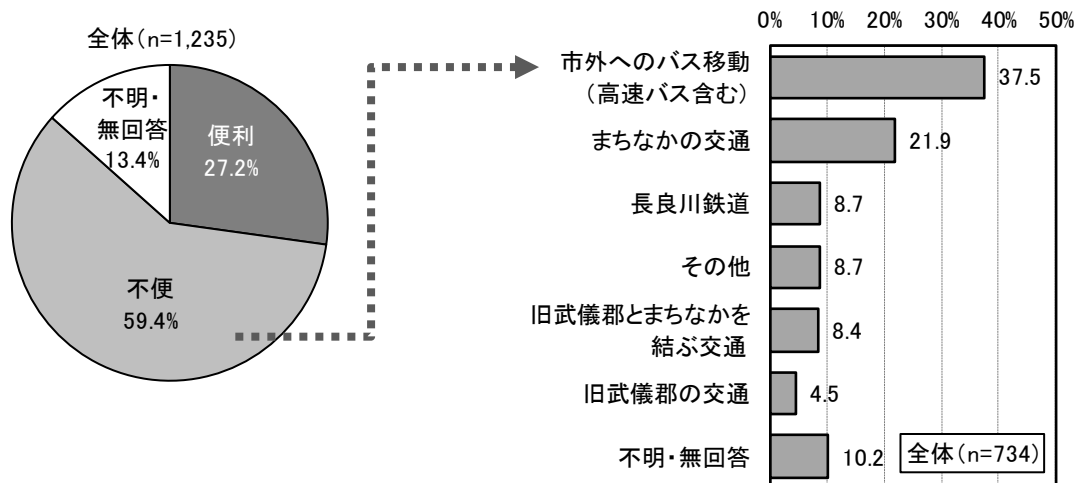
市の公共交通の利用について、『利用している』が10.2%、「利用していない」が77.7%となっています。なお、『利用している』方が公共交通を利用して行く場所は「名古屋市などの市県外」が48.6%と最も高くなっています。



●市の公共交通の利便性について

●市の公共交通の利便性について、具体的に不便に感じているところ(※『不便』を選んだ方)

市の公共交通の利便性について、「便利」が27.2%、「不便」が59.4%となっています。なお、市の公共交通が『不便』と回答した方のうち、具体的に不便に感じているところは、「市外へのバス移動(高速バス含む)」が37.5%と最も高く、次いで「まちなかの交通」が21.9%となっています。



令和3年度アンケート調査(せきのまちづくり通信簿)調査結果【結果報告書・概要版】

発行年月: 令和4年3月

発行: 関市 / 編集: 関市 市長公室 企画広報課

岐阜県関市若草通3丁目1番地 TEL: 0575-22-3131 (代表) / FAX: 0575-23-7744